第27回

みんなの尼活皆議

消防団員として活動されているみなさまと
～消防団における消防力の維持・増進に向けて～



令和８年８月30日、消防団として活動をされている皆さんと「将来の災害への備えとして、消防団における消防力をどのように維持・増進するか」について話し合いました。皆さんからは人的資源の確保に関する課題、やりがいを実感できる環境の整備に関することなど様々なご意見をいただきました。

活動時における託児制度の導入

【参加者からのご意見①】
共働き世帯が増加する中、子どもの預かりなど福祉面でのサポートがあれば、入団の促進等につながると思う。

【これからの対応について】
消防団活動における託児制度の導入は注目を集めつつあり、試行的に導入している自治体もあります。
尼崎市においても、こうした先進事例から学びつつ、ニーズや効果を調査するとともに、関係部局との庁内連携のあり方等についても検討していきたいと考えています。





学生の入団促進

【参加者からのご意見②】
防災の分野に興味を持つ学生は多いため、例えば防災を起点に緩やかな関係性を構築し、その後、消防についても関連付けていくことが出来れば入団の促進等につながると思う。

【これからの対応について】
これまでから大学生や高校生と消防団員との座談会を開催するなど、若者向けにも消防団の魅力を伝える取組を進めてきていますが、団員数は減少する傾向にあります。
学生の「社会貢献したい」、「地域に関わりたい」といった動機が消防団活動へと繋げられるよう、従来の「募集→入団」ではなく、「興味・関心→体験→協働参画→入団」といった関係を構築していけるよう取り組んでいきます。

消防団活動経験者に優遇措置を

【参加者からのご意見③】
尼崎市消防職員の採用試験の際、消防団として活動していた実績があれば加点するような仕組みを設けてはどうか。

【これからの対応について】
消防職員の採用試験における加点措置は、受験機会の均等や選考の公平性を担保する必要があることから、直ちに導入することは難しいと考えています。
そのため先ずは、国が推奨する「学生消防団活動認証制度」の導入を研究し、消防職員の採用試験に限らず、消防団活動の実績があらゆる就職活動の場面で活用される仕組みを検討するとともに、他都市の事例や制度運用上の課題を研究しながら、消防団活動の適切な評価のあり方について引き続き検討を進めていきます。



「救助」を想定した訓練

【参加者からのご意見④】
災害が生じた際には消火活動のみならず救助活動も必要になることが想定されるため救助用の資機材導入、避難誘導や救助・救出活動に係る訓練の充実を図る必要があると感じる。

【これからの対応について】
現在も救助用資機材の導入は進めているところですが、南海トラフ地震など大規模災害が発生したときのことを考慮すると救助・救出に係る訓練の充実は益々必要なものであると認識しています。
一方で、訓練の充実は団員の負担感の増へと繋がる側面もあるため、多様な団員の声に耳を傾けながら進めていきたいと考えています。

団員のモチベーション向上と魅力の発信

【参加者からのご意見⑤】
ポンプ操法大会（消防団員が消火活動の迅速性、確実性、安全性を競い合う競技会）を多くの方に見てもらえるような形で開催できれば、消防団員としても緊張感を持ちながら取り組むことができるし、年齢や性別に関わらず多くの方に消防団の魅力を伝える良い機会になると感じる。

【これからの対応について】
ポンプ操法大会はご指摘のような狙いもあって、今年度から開催場所を変更して開催する予定です。また同大会に限らず様々な工夫により、消防団員が一層やりがいを持つとともに、多くの方に消防団の魅力を感じてもらえるよう取り組んでいきます。

女性団員への配慮

【参加者からのご意見⑥】
近年、女性の団員入団もあり嬉しく思っているが、女性用トイレが器具庫内にない分団もある。今後、器具庫を更新する際には女性にも配慮した設えにしてもらいたい。

【これからの対応について】
分団器具庫の建替えに当たり、男女別トイレや女性用更衣室を整備するよう取り組んでいるところです。一方で、器具庫の建替えには用地の確保や器具庫の状況、多額の費用を要するほか、団員数の減少といった事情もあり、すべての施設について直ちに対応することは難しい状況です。
しかしながら、女性団員が安心して活動できる環境整備は重要であり、必要性や緊急性を見極めながら計画的に改善を進めていきます。



（※）参加者の皆さまのご意見や取組中（または取組予定）の事業等は、代表して一部のみを掲載しています。
この他にいただいたご意見等は、尼崎市公式ホームページに掲載の車座集会の対話録をご覧ください。